

壮語の漢字音

吉池孝一

1. 序言

チワン族(壮族)は中国の少数民族のなかで人口が最も多い。2000年の統計によると1600万人強にのぼり広西壮族自治区を中心に分布する。この民族は自らの言語を表記するために漢字および漢字を変形して作った文字すなわち「古壮字」「方塊壮字」「土俗字」などと称される漢字系文字を民間で使用してきた¹。古くは唐代に遡る資料があり文学作品をはじめ多方面にわたる資料が確認されており現在でも使用されるが²、これに代わる文字として1955年にラテン文字による表記方案が制定された。その後このラテン文字表記方案は修訂を経て1982年に公布された³。なお、1955年のラテン文字表記方案においてチワン語の武鳴方言音がチワン語標準語音として採用されたわけであるが、本稿で資料として利用する『古壮字字典』(1989年)の音も武鳴方言によるものである。さて、古壮字は次に挙げる四種の文字から成る。1. 会意字。二つの漢字を意符として左右上下に配して新たな文字を作りチワン語を表記したもの。2. 形声字。二つの漢字を意符と声符として左右上下に配して新たな文字を作りチワン語を表記したもの。3. 借漢字。音を借りた「借音字」と、音と義の両方を借りた「借音借意字」がある。前者は漢字の仮借で後者は借用漢語である。4. その他の変形漢字および象形字。会意字や形声字以外の変形漢字および漢字とは無関係の象形文字を作りチワン語を表記したもの。以上四種のうち漢字音と関係するものは3の借漢字である。あるいは2の形声字の声符も漢字音として利用することができるかもしれない。ここでは3の「借音借意字」、すなわち漢字で表記された借用漢語音をチワン語の漢字音として検討する⁴。なお、『古壮字字典』の各文字に付された音声記号はチワン語北部方言の武鳴方言音である。したがってこれから紹介する漢字音は、チワン語(武鳴方言)の漢字音ということになる。

2. 『古壮字字典』中の借用漢語音

『古壮字字典』中の〈方〉は方言であり、凡例によるとチワン語標準音と隔たりの大きな方言音を別項目として立てたという。例えば「盞〈方〉[a:ŋ⁶]盆子」。また、見出し字の後に()を付して提示された文字は異体字である。例えば「{月小}(消)[θi:u¹]消;消化」の(消)。本稿ではこのような方言と異体字は除外することとした。なお、[a:ŋ⁶]など右上の数字は声調であり8種類ある。各項目末に付した(去滂)などは中古漢語音の声調と声母。こ

¹ この文字は各地で字形が異なる場合がある。また行政文書や正規の教育機関で採用されたことはなく、チワン族の正式な文字とは言えない。

² 梁庭望1991参照。

³ 以上は韋慶穩・覃国生編著1980、梁敏1992、及び魏忠2004の233-241頁参照。

⁴ チワン語の漢字音の概略については吉池2011で述べた。

れは参考のために本稿が付したものを。

吧	[pa5] (手) 帕; 巾 (去滂)
白	[pe:k ⁸] ①白〔没有成就或没有效果〕 ②白色 ③白切(肉類不加佐料煮熟後切吃) (入並)
比	[pei ³] ①好象 ②比; 比較; 較量 (上幫)
拍	[pe:k ⁷] 拍 (入滂)
盃	[po:i ¹] 杯子 (平幫)
賠	[po:i ²] 還; 賠償; 報; 報答 (平並)
本	[po:n ³] ①~本(書) ②本錢; 資本 ③本(人) (上幫)
差	[ca ¹] ①(交)叉; (交)錯 ②差; 相差 (平初)
尽	[can ⁶] ①尽; 完 ②尽是; 老是 (上從)
奏	[cau ⁵] 聚集; 拼湊; 將就 (去精)
踩	[ca:i ³] 踩; 踏; 蹣 (ts ^h ai 3 声)
帑	[cej ³] 紙 (上章)
撐	[ce:ŋ ³] ①推〔指由下往上頂或推〕 ②撐(船、篙) (平徹)
掙	[ce:ŋ ⁵] ①勉強 ②撐 (去莊)
只	[ci ³] ①才 ②只 (上章)
針	[cim ¹] ①針 ②花生、紅薯等植物的針狀莖 (平章)
从	[coŋ ²] ①從 ②服從 (平從)
總	[cuŋ ³] 都; 總; 全部; 統統; 完全 (上精)
踏	[tap ⁸] 蹬〔以脚掌蹬〕 (入透)
特	[tak ⁸] ①男性 ②男性的量詞 ③男性的詞頭 ④哺乳動物雄性的總稱 (入定)
涕	[tai ³] 哭 (去端)
底	[tai ³] ①底 ②底子 ③(吃)虧; (蝕)本 (上端)
頭	[tau ²] ①第一 ②首領 (平定)
大	[ta:i ⁶] ①大 ②序數詞的詞頭 ③很(多) ④大(家) (去定)
汰	[ta:i ⁶] 濾; 過濾 (去透)
打	[ta ³] ①自從 ②打(磚、瓦) ③搓; 編 ④用作動詞詞頭 ⑤打 (上端)
趟	[ta:ŋ ⁵] 次; 回 (去透)
倒	[ta:u ⁵] 倒立; 倒挂; 顛倒 (去端)
凸	[tot ⁸] 凸; 超出 (入定)
垌	[toŋ ⁶] 田垌; 田野 (上定)
段	[tu:n ⁶] ①斷絕 ②距離 ③~段〔一般指時間、路等〕 (去定)
衣	[ei ¹] ①紙剪的鬼衣〔祭拜時燒化〕 ②蓑衣 (平影)

份	[fan ⁶] ①自己〔詞頭, 加在人稱代詞前〕 ②份; ~份〔量詞〕 (去奉)
文	[fan ²] 文字 (平微)
煩	[fa:n ²] 前面加“操”, 義為添麻煩; 勞神; 打擾 (平奉)
伏	[fuk ⁸] 服; 服從; 服氣; 佩服 (入奉)
各	[ka:k ⁸] 各; 獨自 (入見)
鯁	[ka:ŋ ³] 魚刺 (上見)
几	[kei ³] 几 (上見)
京	[kiŋ ¹] ①首都 ②最上等的(炭、墨) (平見)
擎	[kiŋ ²] ①擎; 舉 ②(尾巴)翹起 (平群)
公	[koŋ ¹] ①祖父 ②對同輩或長輩男性稱呼的詞頭 ③成年男性的量詞 (平見)
角	[ko:k ⁷] ①角落; 地方 ②角 (入見)
冠	[ku:n ¹] 道公、師公帽子的頂冠 (平見)
鑛	[ku:n ⁵] 罐; 砂{保(上)+火(下)} (去見)
僵	[kjaŋ ³] 凍僵 (平見)
稼	[kja ³] 秧; 秧苗 (去見)
孝	[ha:k ⁸] ①學; 學習 ②學校; 學堂 (入匣)
好	[ha:u ³] 很; 極; 非常; 十分 (上曉)
喊	[he:m ⁵] 叫; 叫喊; 呼喊 (上曉)
桁	[he:ŋ ²] 桁(條) (平匣)
合	[ho:p ⁸] 合攏; 圍攏 (入匣)
怨	[i:n ⁵] ①埋怨; 怨恨 ②悔 (去影)
羅	[la ²] 羅(盤) (平來)
冷	[le:ŋ ⁴] ①冷 ②晾 (上來)
量	[li:ŋ ⁶] 估計; 衡量; 揣測; 料想 (去來)
另	[liŋ ⁶] 另(外); 重新 (去來)
靈	[liŋ ²] (恰)巧; (湊)巧 (平來)
了	[li:u ⁴] 完了; 之後 (上來)
六	[lok ⁸] ①六〔序數詞〕 ②福分 (入來)
槓	[lo:i ⁶] (木)錘 (去來)
雷	[lo:i ²] 雷王; 雷公 (平來)
論	[lun ⁶] ①論述; 議論 ②講給; 聽說; 告訴 (去來)
否	[bou ³] 不; 沒 (上非)
面	[mi:n ⁶] ①一辺; 一面 ②小麥 ③假面具 (去明)
納	[na:p ⁸] ①交納 ②心情舒坦; 踏實 (入泥)
丫	[ŋa ¹] ①分支 ②枝 (平影)

濃	[noŋ ²] ①濁；渾〔水不清〕 ②濃：稠密〔跟“淡”相對〕（平泥）
牙	[na ²] ①(牛馬的)牙齒〔別稱〕 ②(鋸、鎌、耙)齒（平疑）
糶	[ya:u ⁵] ①耙 ②耙子（去來）
絲	[θei ¹] 絲；絲綫；細絲（平心）
時	[θei ²] 後面加“氣”，義為運氣；時運（平禪）
相	[θi:ŋ ⁵] ①相貌 ②相片 ③漂亮；聰明；能干（去心）
惺	[θiŋ ³] 清醒；(睡)醒；敏感；聰明；機驚（上心）
双	[θo:ŋ ¹] 二；兩（平生）
算	[θu:n ⁵] ①計數 ②認作；當作 ③作罷（去心）
乘	[θuŋ ²] 乘機（平船）
汚	[u ⁵] ①髒；骯髒 ②玷；玷汚（平影）
惑	[wak ⁸] 猜疑；疑惑（入匣）
歡	[wu:n ¹] 後面加“榮”，義為高興；愉快；寬心；幸福（平曉）
音	[jam ¹] 聲音；注音（平影）
榮	[juŋ ²] 前加“歡”，義為高興；愉快；寬心；幸福（平云）

3. 声母

声母の特徴は以下のとおり。

①中古漢語音の破裂音声母には無声無気音**p-* **t-* **k-*無声有気音**p^{h-}* **t^{h-}* **k^{h-}*有声音**b-* **d-* **g-*の区別があるが、その区別は反映されず一律に無声無気音の[**p-* **t-* **k-*]となる。例えば、比盃本(幫母**p*)と杷括(滂母**p^{h-}*)と白賠(並母**b-*)は[**p-*]となり、滌底打倒(端母**t-*)と踏汰趨(透母**t^{h-}*)と特頭大凸垌段(定母**d-*)は[**t-*]となる。牙音の場合、各鯁几京公角冠{缶貫}僵稼(見母**k-*)と擎(群母**g-*)は[**k-*]となる。このように中古漢語音の無声有気音が無声無気音となるのは[**p^{h-}* **t^{h-}* **k^{h-}*]など無声有気音のないチワン語(武鳴方言)の音韻による訛り。中古漢語音の有声音が無声無気音となることについては検討を要する。カム・タイ語には声門閉鎖音を伴った2種の有声破裂音[**ʔb-* **ʔd-*]が広く認められ武鳴方言にもあるが、中古漢語音の**b-*と**d-*に対して有声音の[**ʔb-*]と[**ʔd-*]ではなく無声音の[**p-*]と[**t-*]を当てる。これは漢語原音の当該音とチワン語(武鳴方言)の[**ʔb-*]と[**ʔd-*]とが相容れない音声となっていたことを示す。

②中古漢語音の破擦音声母**ts-* **ts^{h-}* **dz-* **tʂ^{h-}* **tʂ-*などは無声齒茎硬口蓋摩擦音 *ʃ-* となり、**s-* **ʂ-* **dz-*など摩擦音と一部の破擦音は無声齒摩擦音[θ-]となる。例えば、奏總(精母**ts-*)尽从(從母**dz-*)掙(莊母**tʂ-*)差(初母**tʂ^{h-}*)昏只針(章母**tʂ-*)撐(徹母**t^{h-}*)は[θ-]となり、絲相惺算(心母**s-*)双(生母**ʂ-*)乘(船母**dz-*)時(禪母**ʒ-*)は[θ-]となる。これはチワン語(武鳴方言)に破擦音がなく、ただ2種の摩擦音[*ʃ-*]と[θ-]があることによって生じた訛りであるが、旧破擦音と旧摩擦音の区別は2種の摩擦音[*ʃ-*][θ-]によって保たれる。

③中古漢語音の牙喉音(*ki- *k^{hi}- *hi-など)は現代の北方漢語において舌面音化([tɕ- tɕ^h- ɕ-])するが、この漢字音では牙喉音のままである。例えば、几京擎角僵は[k-]であり孝は[h-]である。

4. 韻母

韻母の特徴は以下のとおり。

①中古漢語音の鼻音韻尾*-m -n -ŋ はそれぞれ[-m -n -ŋ]となる。例えば、針音喊(*-m)は[-m]となり、本尽段算份煩怨面文冠鑽歡(*-n)は[-n]となり、撐掙趨从濃總垌鯁冷京擎榮公僵桁另靈量相惶双乘(*-ŋ)は[-ŋ]となる。

②中古漢語音の入声韻尾*-p *-t *-k はそれぞれ[-p -t -k]となる。例えば、踏合納(*-p)は[-p]となり、凸(*-t)は[-t]となり、白扞特惑伏各角孝六(*-k)は[-k]となる。

音節末子音の[-m -n -ŋ -p -t -k]はカム・タイ語に広くみられ、中古漢語音の韻尾との間に対応がある。これはチワン語(武鳴方言)が拠った漢語原音に中古漢語音の韻尾と同様の韻尾が保存されていたことを示す。

5. 声調

声調の特徴は以下のとおり。

中古漢語音の声調「平上去入」は陰陽に別れ、チワン語(武鳴方言)の8つの声調に対応する。例えば、チワン語(武鳴方言)の1声「盃(平幫)差(平初)針(平章)衣(平影)京(平見)公(平見)冠(平見)丫(平影)絲(平心)双(平生)歡(平曉)音(平影)」は陰平に、チワン語(武鳴方言)の2声「賠(平並)从(平從)頭(平定)文(平微)煩(平奉)擎(平群)桁(平匣)羅(平來)靈(平來)雷(平來)濃(平泥)牙(平疑)時(平禪)乘(平船)榮(平云)」は陽平に、チワン語(武鳴方言)の3声「比(上幫)本(上幫)昏(上章)撐(平徹)只(上章)總(上精)滄(去端)底(上端)打(上端)鯁(上見)几(上見)僵(平見)稼(去見)好(上曉)否(上非)惶(上心)」は陰上に、チワン語(武鳴方言)の4声「冷(上來)了(上來)」は陽上に、チワン語(武鳴方言)の5声「杷(去滂)奏(去精)掙(去莊)趨(去透)倒(去端)鑽(去見)喊(上曉)怨(去影)撻(去來)相(去心)算(去心)汚(平影)」は陰去に、チワン語(武鳴方言)の6声「尽(上從)大(去定)汰(去透)垌(上定)段(去定)份(去奉)量(去來)另(去來)樞(去來)論(去來)面(去明)」は陽去に、チワン語(武鳴方言)の7声「扞(入滂)角(入見)」は陰入に、チワン語(武鳴方言)の8声「白(入並)踏(入透)特(入定)凸(入定)伏(入奉)各(入見)孝(入匣)合(入匣)六(入來)納(入泥)惑(入匣)」は陽入に、それぞれほぼ相当するといえよう。(平徹)など下線を付したものはチワン語(武鳴方言)の声調と対応しないもの⁵。

6. 結語

チワン語の借用漢語音について報告したものに早くは韋慶穩・覃国生 1980 がある。チワ

⁵ 陽去中に全濁上声が2例ある。

ン語の北部方言と南部方言の幾つかの地点をあげ、そこに見られる借用漢語音を紹介したものである。借用漢語音には2種の層があるという。すなわち「老借詞」と「新借詞」。北部方言の中心言語である武鳴方言の状況も全面的ではないが知ることができ、それによると『古壮字字典』（1989年）のチワン語（武鳴方言）漢字音は「老借詞」とほぼ同様の特徴を示す。今回は漢字で表記された借用漢語を漢字音として検討したわけであるが、『古壮字字典』中の仮借字や形声字の声符も検討の対象となる。相互にどのような関係があるか興味深い。なお、最近の報告としては曾曉渝 2010 がある。これはチワン語北部方言の高田方言を調査したものであり借用漢語を4種の層に分ける。すなわち「上古借詞」（2.2%）、「中古借詞」（74.6%）、「中古到近代過渡階段借詞」（10.6%）、「近現代借詞」（12.6%）。このような調査報告は『古壮字字典』中の漢字音の検討にあたって参考となる。もっとも『古壮字字典』のような字典類の場合、雑多な資料の集積となるのが普通であり、大きな傾向を掴むくらいのことしかできないであろう。

〈参考文献（発行年順）〉

- 韋慶穩・覃国生編著 1980. 『壮語簡誌』民族出版社。
- 廣西壮族自治区少数民族古籍整理出版規劃領導小組主編 1989. 『古壮字字典』廣西民族出版社。
- 梁庭望 1991. 「古壮字及其文献新探」, 『中国民族古文字研究（第三輯）』天津古籍出版社, 150-164 頁。
- 梁 敏 1992. 「壮文」, 『中国少数民族文字』中国藏学出版社, 140-145 頁。
- 戴慶厦 1998. 「第一節 漢藏語系語言研究」, 『二十世紀的中国少数民族語言研究』（戴慶厦主編）書海出版社, 2-98 頁。
- 倪大白 1998. 「第三節 侗台語族（壮侗語族）語言研究」, 『二十世紀的中国少数民族語言研究』（戴慶厦主編）書海出版社, 166-234 頁。
- 魏 忠 2004. 『中国的多種民族文字及文献』民族出版社。
- 曾曉渝主編 2010. 『侗台苗瑶語言的漢借詞研究』商務印書館。
- 吉池孝一 2011. 「周辺言語の漢字音」, 『KOTONOHA』（古代文字資料館）第 106 号, 6-18 頁。